

平成 26 年 3 月 4 日

各 位

会 社 名 アキュセラ・インク (Acucela Inc.)  
代 表 者 名 会長、社長兼 CEO 窪田 良  
(コード番号：4589 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 アキュセラ・インク (Acucela Inc.)  
日本事務所 ディレクター 須賀川 朋美  
(TEL：03-5789-5872 (代表))  
代 理 人 ベーカー&マッケンジー法律事務所 (外国法共同事業)  
弁護士 高橋 謙 (TEL：03-6271-9900)

### 「エミクススタト塩酸塩」の臨床第 2b/3 相試験被験者登録完了

シアトル市 (2014 年 3 月 3 日 (米国西海岸標準時間)) — 視力を脅かす眼疾患を治療または進行を遅らせる可能性のある革新的な治療薬の探索および開発に取り組んでいる臨床開発段階のバイオ製薬企業アキュセラ・インク (コード番号：4589 東証マザーズ) は、本日、地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性患者を対象にした「エミクススタト塩酸塩」の臨床第 2b/3 相試験の被験者登録を完了したことを発表しました。SEATTLE 試験 (The Safety and Efficacy Assessment Treatment Trials of Emixustat Hydrochloride study) は、多施設共同、無作為化二重盲検用量範囲探索試験で 2013 年初頭に開始されました (ClinicalTrials.gov identifier: NCT01802866)。本試験には、地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性患者合計 508 名が被験者として登録されました。「エミクススタト塩酸塩」は、ドライ型加齢黄斑変性患者の地図状萎縮の病変の進行を遅らせる効果が期待されており、現在その効果を実証すべく臨床試験が行われています。

アキュセラ・インクの会長・社長兼 CEO である窪田良医学博士は、「本試験の被験者登録が予定よりも早く完了できたのは、多くの方々のサポートのお陰であり、少しでも早く本剤を皆様にお届けできるよう、これからもチーム一丸となって精進して参ります。」と述べています。

当社の自社開発品である「エミクススタト塩酸塩」は、経口による投与が可能な、視覚サイクルに選択的に作用する化合物であり、現在、地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性の治療薬候補として臨床試験を行っています。現在ドライ型加齢黄斑変性の治療薬として FDA の承認を受け上市されている薬剤はありません。

#### ドライ型加齢黄斑変性について

加齢黄斑変性は失明疾患の主要原因となっています。加齢黄斑変性の患者数は全世界で約 1 億 2000 万人、米国で約 1000 万人と推定されています<sup>(1)</sup>。地図状萎縮はドライ型加齢黄斑変性の悪化に伴い発症し、中心視力が時間の経過とともに少しずつ失われていきます。

## アキュセラ・インク (Acucela Inc.) について

アキュセラ・インク (英語サイト：[www.acucela.com](http://www.acucela.com) 日本語サイト：[www.acucela.jp](http://www.acucela.jp)) は、世界中で数百万人が罹患している視力を脅かす眼疾患を治療または進行を遅らせる可能性のある革新的な治療薬の探索および開発に取り組んでいる、臨床開発段階のバイオ製薬企業です。当社と大塚製薬株式会社は、現在、当社が独自に創製した視覚サイクルモジュレーションに基づく地図状萎縮を伴う加齢黄斑変性の治療薬「エミクススタト塩酸塩」および高眼圧症または開放隅角緑内障に対する治療薬「OPA-6566」の共同開発を行っています。

## 注意事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。また本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。

本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定（一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません）に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。

(1) 2012 Comprehensive Report on The Global Retinal Pharmaceuticals & Biologics Market, Market Scope.

以上